

子宮頸がん予防ワクチン(サーバリックス、ガーダシル)は、桁違いに副反応の頻度が大きく、程度もひどい。アメリカでは約800万人の女性にガーダシルが注射されたが、ワクチン有害事象報告システムVAERSへの登録は、有害事象(副反応)26050、入院2669、回復しない者5318、てんかん・けいれん1216、**死亡114** となっている。実際にはこの数倍~10倍の犠牲者が存在すると考えられる。

最も深刻なものは「**突然死**」である。接種当日から3月位(あるいはそれ以上)で起こる可能性がある。司法解剖された例がいくつもあるが、すべて「**原因不明**」とされている。

次に深刻なものは脳の障害である。**急性散在性脳脊髄炎(ADEM)**が引き起こされているためである。症状としては、意識障害、てんかん・けいれん、嗅覚異常、視力障害、歩行障害、転倒、書字障害、痛みなど。さらに記憶力の低下、学習能力の低下もおこることがある。一旦起こったら極めて深刻なものとなる。

末梢神経で炎症が起った場合、**ギラン・バレー症候群**と呼ばれる。症状としては筋力低下、歩行障害、知覚鈍麻、ジンジンする痛みなど。半分ぐらいは回復しない。

さらに、めまい、非常に疲れやすい、ということがおこる。また異常に痩せる。これらは**慢性疲労症候群/筋痛性脳脊髄炎(CFS/ME)**と理解されている。学校へ行けない、働けないということがおこる。

自己免疫性疾患と分類される若年性リウマチ(Still病)、全身性紅斑性狼瘡(SLE, Lupus)、血小板減少性紫斑病がひきおこされるが、これらは殆ど治癒しない。

また、くりかえし続く腹痛がおこることがあり、虫垂炎と間違われて手術された例もある。下血し、潰瘍性大腸炎と診断された例もある。膵炎、肝炎も合併する。

免疫細胞が、自身の神経線維、関節、白血球を攻撃するようになると、それぞれADEM、若年性リウマチ、SLEがおこる。このような仕組みが成立した場合、取り消すことができない。

また、免疫抵抗力が下がり、感染症に弱くなる。

ワクチンの副反応がおこれば、最悪の場合、寝たきりとなる。人生が断たれる。家族への影響甚大。

(アメリカ、イギリスの被害者の手記を読みたい)

日本の副反応報告の分析

厚労省資料 平成21年12月~23年11月 509万本出荷、340万人接種(推計)。

副反応報告 1295例、**重篤 682(980)例**、非重篤 713例(重篤に評価替え298例)

死亡 1例(突然死)。 心肺停止で発見されたもの 2例(3日目と6日目)、後遺症あり。

脳脊髄炎、小脳性運動失調症など、脳の傷害が疑われるもの 38例以上 (筆者のピックアップ)

ギラン・バレー症候群 6例、

呼吸停止 6例 (一時的な呼吸筋のけいれんおこるのか)、

気管支喘息 11例、気胸(肺に穴があき空気が漏れる) 3例

若年性リウマチ(発熱、ピンクの発疹、関節痛) 5例

全身性紅斑性狼瘡(SLE, Lupus) 5例(胸水1例、急速進行性糸球腎炎1例)

ネフローゼ症候群(腎臓からタンパクが漏れる) 2例。

スティーブンス・ジョンソン症候群(全身の薬疹。死亡、失明することがある) 3例

流産 4例、月経困難 7例、人工流産 1例、低体重児 1例、不整性器出血 20例、

サーバリックスの注射により、欠神発作、てんかん発作が誘発され、突然倒れたりケイレンしたりする。

厚労省資料:意識消失416例、ケイレン65例、ケガ35例。血圧の低下は18%でしか確認されていない。

例(No.4):注射より15分後、立位より(後方に)転倒、後頭部を打撲、症状は直ちに消失。血圧低下なし。

持続する腹痛、関節痛 外来診療で時々遭遇するようになった。

不整出血、月経の異常がかなり大きな頻度で起っている。将来不妊にならないか、懸念される。

